

## ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.56  
一旦は禁煙  
したけれど

「して、主は禁煙が出来たかの」  
無想空間で和尚の声が聞こえる。

古川が答えに窮している時、和尚  
の警策が左肩に食い込む。

「一旦は止めれました。タバコを  
吸っている人に近づくと服に染みつ  
いた腐ったナフタリンのような匂い  
が気になる様になり、タバコを吸っ  
ている人を見ると敬遠するようにな  
っていたのですが、禁煙して一年も  
経たない頃飲み会でつい…」

無言で二回目の警策が右肩に打ち  
込まれ、右眉を歪める古川。

「あれほど臭いと思っていたのに、  
気が付くと人に勧められるままその  
日は10本ほど吸っていて、帰りには  
コンビニで一箱買っていました。タバ  
コを買う時には以前ならまとめ買  
いをしてたのですが、今日はもう  
吸っちゃったから、明日からまた禁  
煙しよう。もう今日だけと思って買  
った一箱のはずが、二箱、三箱と気

が付けば元に戻っていました。」

「止めようとは思わぬのか。」

「健康にいいのは分かっているし、  
禁煙している方が体調がいい事も体  
感しているのですが…」

さらに警策が撃ち込まれる。

「分かってはいるのですが、」

堂の外では西の空から墨汁のよう  
な雷雲がゆっくり向かって来ている。  
姫の叫び声が聞こえる。

「山部さんも早よ手伝うてやー。  
雨が降り始めるがな。手伝わんかっ  
たら、もう分けたげんでー。」

姫が耕し始めた4畳半の荒れ地は、  
すっかり様変わりし、今は真っ白に  
おしろいした冬大根がこれ見よがし  
に土上に顔を出している。額に汗し  
て一心不乱に大根を抜いている姫が  
山部に助けを求める。

「立派な大根だなー。荒れ地の頃  
はどうせ3日坊主だろうと思ってみ  
ていたが、立派だよ。で、こんなに  
一遍に大根を抜いてどうするんよ。」

「おでん、鍋、沢庵、エトセトラ。  
野菜は旬の内に食べると味が落ちる  
でしょ。旬のものは堪能せな。」

「相変わらず、欲張りだな姫は。」

暗雲とは裏腹にこちらでは心地よ  
い笑い声が響いていた。

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科  
(県立中央病院 前)

院長 中村陽一